

# たけら

TAKUSUI  
No. 695

9

September. 2014

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



ハタハタ (新温泉町・浜坂漁港)

## 但馬地区の沖合底曳網漁業・ベニズワイガニ漁が解禁 兵庫県立水産技術センター 研究発表会 開催

《今月の海上安全標語》～ビューンと絶好調!!～

エンジンなどの機械類は日々のメンテナンスで変わりますよね～。

沖でのトラブル防止のためにも、是非、出港前の点検を!

**不調ナシ! 今日も元気だ エンジン凄い!!** では、今月も安全操業で!

# ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「宜しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる」）

## せみの無機質な鳴き声で暑い夏が始まった。

兵庫県漁業協同組合連合会 監事 笹倉 邦夫



戦後生まれの僕、玉音放送や終戦の虚脱感は知らないが、駅や繁華街で、片手、片足、片目を失った、白い病院服を着た傷病兵さんが、アコーデイオンを弾きながら施しを求めている光景は、目に焼き付いている。陸軍の重爆撃機や海軍の戦闘機乗りの叔父さん達から聞いた戦争の生々しい話もあったが、なぜ兵隊さんが街頭でこんなことを……と幼心に考えたことも。

ノモンハンで完敗した陸軍、5・15や2・26でテロルに怯える政治。7月7日に始まった日中戦争、3ヶ月で終わると豪語した大将もいた。欧州ではドイツがイギリスに上陸しドイツの勝利で戦争が終結するとの情報が。時代に遅れるなど、三国同盟を締結。アメリカの反発はないはずだと読み、仏印南部まで進駐した日本軍。結果は正反対。アメリカとのトップ会談も実現せず、戦争へ突入。南方からの資源調達計画は、輸送船の消耗率がこの程度であってほしいとの都合で作成された。にもかかわらず、輸送船の護衛は気にならなかったか。あれだけ戦争に反対していた海軍三羽ガラスも、初めの1年ならば暴れると、無責任にも戦いに突入。戦争終結にあたって、日本のインテリジェンスから届けられたヤルタ会談の情報は日の目を見ることなく、ソビエトに終戦の仲介を申し出る。不都合な真実は隠蔽し、「こうあってほしい」と都合の良い情報だけで作戦を進めてきた。結果が8月15日だった。

戦後、奇跡的に復興した日本経済、トランジスタでラジオを作ろうと、大胆な発想。S社の理想工場はこれを実現、そしてウォークマンは世界を制覇した。続く日の丸半導体も世界を席巻。製造業は大きく躍進した。

あれから数十年。世界を制覇したS社は本業のテレビやエレクトロニクス部門の赤字で苦しみ、家電下郷で巨額投資に失敗したP社はリストラに奔走。半導体メモリー大手のE社はアメリカ資本が買収、マイコンのR社は官製ファンドの傘下で再出発と不本意な敗戦は続いた。そしてものづくりの景色は様変わりした。

そういえば、新聞にこんな記事が掲載されていた。「シャープとサムスン電子の双方に取引のある部材メーカーの幹部はいう。サムスンは「売れる液晶がよい液晶」と考えるが、シャープは「よい液晶は売れるはず」と考える。技術を極めようとするシャープの職人魂には共感する。だが、その考え方は今のシャープは救えない」とか。

環境が激変する時代、ダーウインは「強いものが生き残るのではない。変化できるものだけが生き残る」という。そういえば、世界一速い男ウサインボルトはいった。「強いかから勝ったのではない。勝ったから強いのだ」と。

## CONTENTS

No.695 September, 2014

- 2 ようこそ
- 3 但馬地区の沖合底曳網漁業・ベニズワイガニ漁が解禁 第12回 JFマリンバンク全国大会
- 4 「吉岡 修一氏旭日中綬章受章祝賀会」が開催される
- 5 平成26年度 兵庫県立水産技術センター研究発表会 開催 今年も開催！平成26年度 マリンスクール
- 6 青壮年部員らが出張料理教室 「平成26年度 摂津播磨地区漁協青壮年部連合会 視察研修会」開催
- 7 築地市場と東京シーフードショーを視察 生鮮食品の機能性表示 来春にも解禁か？(コラム)
- 8 公明党兵庫県本部視察研修に来館 シンポジウム「豊かな瀬戸内海の再生」開催
- 9 ハバロフスク友好提携45周年記念兵庫県民交流団へ参加
- 10 10月は全国漁船安全操業推進月間です！
- 12 10月は「地球環境時代！新しいライフスタイル展開キャンペーン」月間で 海難事故をなくそう
- 13 兵庫JCC通信
- 14 旬に想う 大輪田塾だより



### 表紙の言葉

### 「ハタハタ」(新温泉町・浜坂漁港)

(写真提供：JF兵庫漁連 西上 幸作氏)

9月1日(月)から解禁となった但馬地区の沖合底曳網漁業。

写真は浜坂漁港のもので、2日朝に行われた初競りでは、ハタハタをはじめ、カレイやノドグロなどを、仲買人たちが次々に競り落とす姿が見られ、浜は活気に溢れました。

日本海側で一般的なこの魚は、呼び名も多いが食べ方も多彩です。

一夜干し、煮付けをはじめ、刺身、寿司、「しょっつる」(秋田県の魚醤)の材料にも使われるなど、広く愛される美味しい魚です。

今年の「初ハタハタ」はもう食べられましたか？

## 但馬地区の沖合底曳網漁業・ベニズワイガニ漁が解禁



敷き詰められた“香住がに”

但馬では3ヶ月の休漁期を経て、9月1日(月)から但馬地区の主幹漁業である沖合底曳網漁業とベニズワイガニカゴ漁業が解禁となりました。

沖合底曳網漁の初セリは、9月2日(火)に但馬の各港(津居山・柴山・香住・浜坂・諸寄)で行われハタハタ・カレイ類などが次々に水揚げされました。また、9月4日(木)にはベニズワイガニ(香住がに)の初競りが行われ、近畿圏唯一の水揚げ港である香住港には報道陣の姿も多く見られ、浜は活気に包まれました。ここ近年は、解禁後に猛暑や台風などの影響を受けていましたが、今年は気象状況も安定し順調なスタートとなりました。

JF兵庫漁連但馬支所

た。いよいよ始まった今漁期の操業安全と豊漁を祈念いたします。



安全で豊漁の年となりますように…



ノドグロもたくさん揚がりました

## 第12回 JFマリンバンク全国大会

JF兵庫信漁連

JF全漁連、農林中央金庫共催の「第12回JFマリンバンク全国大会」が7月22日(火)東京・港区のザ・プリンスパークタワー東京で開催されました。「浜の暮らしを守る信頼の金融へ」をテーマに開催された大会には、全国から貯蓄推進委員、優良JF女性部ら関係者等約130名が出席しました。

大会では全国の推進委員に対する感謝状の贈呈があり、兵庫はJF湊杉谷富弘組合長、JF赤穂市大河優組合長に贈られました。

このあと、JF根室湾中部酒井昌子女性部部长および宮城県漁協女性部連絡協議会 阜山悦子会長、同漁協 飯尾英樹信用共済部長による県域事例発表や、テレビキャスターの草野仁氏による「いつもチャレンジ精神で」と題した記念講演が行われ、会場は大いに盛り上がりました。最後に大会宣言が採択され閉会となりました。



# 「吉岡 修一氏旭日中綬章受章 祝賀会」が開催される



山田会長の挨拶

旭日中綬章受章祝賀会が盛大に開催され、全国から約230人が出席し、功績をたたえ受章のお祝いをしました。吉岡会長は平成23年3月に発生した東日本大震災において全国共済水産業協同組合連合会の代表理事会長として、共済金の迅速な支払態勢を構築し被災された漁業者や漁協の再建に大きく貢献されました。また、日韓漁業問題では卓越した手腕を発揮され底曳網漁業の経営維持や資源管理の推進に大きな役割を果たされました。こうした功績が認められこのたびの旭日中綬章を受章されました。



7月31日(木)、神戸市内のホテルにおいて全国底曳網漁業連合会吉岡修一会長(JF但馬)の旭日中綬章受章祝賀会が盛大に開催され、全国から約230人が出席し、功績をたたえ受章のお祝いをしました。



開会后、主催者を代表してJFグループ兵庫山田隆義会長(JF兵庫漁連)が「旭日中綬章受章は本県漁業者では初めてのことで、心からお祝いを申し上げます。微力ではありますが、私どもが偉大な功績を継承していきたいと思う。今後とも本県漁業の振興にご指導を賜らんことを切にお願いしたい」と挨拶しました。続いて、兵庫県井戸敏三知事が「平成19年の旭日双光章に続く上の受章となった。誠に喜ばしいことであり、今後ますますのご活躍を期待したい」と祝辞を述べられ、一句を贈られました。衆議院谷公一議員は「2度の叙勲はなかなかない。我が事のようにとてもうれしく思う」と称えました。水産庁本川一善長官は「水産日本の復活に向けて、今後とも指導ご鞭撻をいただきたい」とされ、JF全漁連岸宏会長も「これまでの豊富な経験を生かして、全国の漁業者のために取り組んでいただきたい」とお祝いの言葉を贈られました。この後、受章



井戸知事からは歌の披露もありました



お祝いの言葉を贈られた谷衆議院議員、本川水産庁長官、岸JF全漁連会長(左から)

者から「皆様方の温かいご配慮に心から感謝申し上げます。思いもかけない光栄に身が縮む想いです。今後受章を励みに全底連会長として頑張っていきたい」と述べました。続く鏡開きでは、吉岡会長をはじめ多数の来賓とともに大日本水産会白須敏朗会長の音頭で行われ祝宴に入りました。中締めではJF兵庫信漁連山田峰人会長から万歳三唱の発声があり、JFぎよさい兵庫川越一男組合長が「これからも浜を元気づけていいただきたい」と挨拶をし、盛況裡のうちに祝賀会は幕を閉じました。



白須会長の音頭で行われた鏡開き

# 平成26年度 兵庫県立水産技術センター 研究発表会開催

8月11日(月)、平成26年度兵庫県立水産技術センター研究発表会が明石市二見町の同センターで開催され、関係者約100名が参加しました。この催しは、兵庫県における水産試験研究の最新の成果について分かりやすく発表するもので、同センター見学会と併せて、毎年、夏休みのこの時期に行われています。

研究発表会は午後から行われました。今年も研究員のほか、漁業者、系統団体の報告があったためか、会場には多くの漁業者が訪れました。

今回の発表(別表参照)は、これからの水産の技術開発に重要な研究課題や新たな取り組みが提案され、会場に詰めかけた参加者は真剣に聴き入り、発表後の質疑応答では多くの意見が交わされていました。



発表会の様子

発表内容	研究者名
瀬戸内海東部海域の漁場環境と漁業の現状 及び今後の課題について	反田 實(水産技術センター 技術参与)
効率的なカキ養殖と漁場環境の保全を目指して	磯部 公一(JF室津)
バイオテレメトリーによるズワイガニの行動追跡	大谷 徹也(但馬水産技術センター 主席研究員)
アサリ種苗生産 ~大型化への取り組み~	大西 祐介((公財)ひょうご豊かな海づくり協会 主査)
近年のイカナゴシンコ漁	中村 行延(水産技術センター資源部 主席研究員)

(敬称略)

## 今年も開催!

### 平成26年度 マリンスクール

#### JF兵庫漁連広報部



コープこうべ・JF神戸市・JF兵庫漁連による協同組合の連携活動として毎年実施しているマリンスクール(2コース)が今年も開催され、参加した親子連れ(189人)は楽しく漁業や県内産水産物について学びました。

第32回となるJF神戸市コース(7月24~25日)では、「せり市」を見学したり、「魚のつかみ取り」、「ヒラメ稚魚の放流」、「タコの塩もみ」などを体験したほか、子供たちは県内の漁業や環境の話聞いた後、お魚クイズに元気いっぱい回答していました。また、稚魚の放流では、神戸市立栽培漁業センターの協力で魚を増やすことの大切さを学びました。

一方、第4回となるJF兵庫漁連SEAT-CLUBコース(8月1~2日)では、晴天のもと「干しダコ作り」や「アジの三枚おろし」、「チリメンモンスター探し」に挑戦しました。みなさん、普段魚にふれる機会が少ないとみえ、どの内容も親子で一緒に目を輝かせて取り組んでいました。どちらのコースも、終了後のアンケートでは多くの方が来年も参加したいとのこと、とても楽しんでもらえたようです。JF兵庫漁連では、このマリンスクールを通して、漁業や水産物をより広く身近に感じてもらえるよう、今後とも取り組んでいきたいと考えています。



ヒラメ稚魚を放流しました!(JF神戸市コース)



親子で干しダコ作りに挑戦(SEAT-CLUBコース)

## 青壮年部員らが出張料理教室

～コープこうべ組合員を対象に～

### 淡路地区漁協青壮年部連合会

淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長・JF淡路島岩屋）は8月23日（土）明石市水産会館でコープこうべ組合員親子ら約40名を対象に料理教室を開催しました。

この日は、兵庫県の漁業を知ってもらうために「漁師と魚のおはなし」と題して講演も行われました。講師は同漁青連相田 欽司監事が行い、参加者達は漁業の現状や獲れる魚の種類などについての説明を熱心に聞いていました。

その後、料理教室では講師は同漁青連 渡邊 直部員が務めました。参加者達は、渡邊部員の鯛の捌き方をしっかりと見習い、上手に魚を捌ぎ、ソテーにしたほか、アラ汁、わかめとちりめんの酢の物を作り、その物を作りました。そして出来上がった料理を囲みながら、参加者とスタッフが同じテーブルに着き、普段なかなか聞けない魚や海のことなどを質問して盛況に終了しました。



調理実習風景

## 「平成26年度摂津播磨地区漁協青壮年部連合会 視察研修会」開催

～系統団体と海上交通について学ぶ～

### 摂津播磨地区漁協青壮年部連合会



挨拶をする大西会長

は「県内の漁協系統団体について理解を深めたい」との意見があったため、兵庫県水産会館において系統8団体から説明を受けることとしたもので、初めて兵庫県内のみの研修となりました。

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会（大西 正起会長・JF伊保）は9月2日（火）・3日（水）に視察研修会を開催し、同部員をはじめ系統団体職員など約30名が参加しました。

水産会館では、各系統団体が持ち時間20分の間に、組織概要や業務内容について話がされ、質疑応答では活発な意見交換がされました。「これまで知らなかった団体もあった」との声もあり、部員らは理解を深めたようでした。

翌日は、淡路市にある第五管区海上保安本部 大阪湾海上交通センター（MARTIS・マーチス）を訪れ、海上交通における安全対策について学びました。同センターでは、概要の説明を受けた後、明石海峡周辺の大型船舶への航行管制や情報提供の業務について学んだほか、実際の監視モニターやレーダー画面、イカナゴ解禁日のレーダーの様子をまとめた映像などを見ることが出来、貴重な体験となりました。



MARTISの屋上から播磨灘を望む



航行管制について説明を受ける部員ら

# 築地市場と東京シーフードショーを視察

但馬地区漁協青壮年部連合会



但馬地区漁協青壮年部連合会（山中康正会長・JF但馬）は、8月20日（水）～22日（木）の3日間にわたり東京を訪れ第16回ジャパンインターナショナルシーフードショーや築地市場の視察研修を行いました。

シーフードショーでは外食業・水産卸売業・水産加工業など様々なブースにて、水産加工品の試食や冷凍機器の見学などを行いました。その中ではJF浜坂のホタルイカ付加価値向上につながる、プロトン凍結されたホタルイカが紹介されていました。

また、東京の一等地である築地市場や銀座三越で香住産と大きく表示されたハタハタやカレイ一夜干しが販売されていることに誇りを感じると共に、これだけの多くの魚介類が売れている東京の購買力に驚きつつ、これからも水揚げされた魚をさらに高鮮度で丁寧に扱わなければならないと再認識しました。



ホタルイカのプロトン凍結が並ぶ



大勢の人で賑わうシーフードショー



三越店頭には兵庫産ハモの湯引きも売られていた



銀座三越で売られるハタハタ

## 生鮮食品の機能性表示 来春にも解禁か？（コラム）

消費者庁は、これまで厳しく制限してきた食品の機能性表示を来春にも規制緩和するようです。平成25年1月発足の規制改革会議、その後の規制改革実施計画（平成25年6月14日閣議決定）に基づき、有識者委員による検討会を重ね今年7月に報告が纏ったとのこと。現行制度では、対象成分を限定した栄養機能食品や、臨床試験や時間と費用など煩雑な手続きを要する特定保健用食品にのみ機能性表示が認められていますが、中小企業にはハードルが高すぎるのが課題に指摘されていました。これに対し、規制改革実施計画には「特定保健食品、栄養機能食品以外のいわゆる健康食品をはじめとする保健機能を有する成分を含む加工食品及び農林水産物について、機能性の表示を容認する新たな方策を検討すること」や、具体的方策を「民間が有するノウハウを活用し、企業自ら科学的根拠を評価した上で、米国の表示制度を参考に、企業等の責任において機能性を表示する」等々、規制の厳しい現行制度を欧米並に緩和し、国際競争も視野に中小企業が多い食品業界の活性を図ろうという政府の意志が示されています。同行は検討会の報告を受けて、加工食品、生鮮食品にも機能性表示を認める方向で政府内調整を進めているようです。

り組み、今回も開発された極上ブリなどの試食会を兼ねて出店されたという。生鮮食品の機能性表示解禁の動きをふまえ、「養殖魚にさらに付加価値を付けるチャンス」だし、生産者の管理責任も大きくなるが「品質の格差も大きくなる」さらに「強力な販売ツールとして、業界の経営安定に繋がる」と、価格先行の時代から品質格差の時代への幕開けと期待をふくらませる。

生鮮水産物の機能性表示が可能となれば、魚介藻類のもつ健康面への明確なアピールが可能となり、鮮度と旬、安全安心な水産物に、厳格な科学的根拠をもって機能性表示があれば、輸入水産物との差別化も期待できます。何より、食料安保へ話題が広がります。戦国の世で難攻不落、籠城戦に強い城も、糧道を絶たれたら落城・開城したといいますが、島国日本は常にその危険を抱えています。水産物の機能性表示解禁は日本の食を見直す絶好の機会です。また、日本固有の食文化の再構築に向けて、それだけの選別眼をもつ消費者を育てよう。官民関係者の一致協力へ努力も必要です。消費者庁の機能性表示制度の動向に注目しましょう。

これらの動きについて、以前から「水産物こそ機能性食品の代表格であり制度の拡充を」と持論を展開していた㈱アプロジャパン代表取締役白石俊訓氏をジャパンインターナショナル・シーフードショー会場に訪ね、話を伺った。同社は、長崎県五島地区などで養殖業者と一体になりDHAやEPAの機能性を高めた養殖魚の開発に取

（U/I）



## 公明党兵庫県本部視察研修に来館

### JF兵庫漁連

8月21日(木)、明石市漁業組合連合会(会長・JF西二見山本章等組合長)・兵庫県漁業協同組合連合会(山田隆義会長)は、水産会館にて、公明党兵庫県本部の視察研修会を受入

ました。公明党からは、濱村進衆議院議員、伊藤勝正県議会議員を始め、県内市議が多数参加。明石市連からは会員JF組合長と、JF兵庫漁連 山田会長、山口徹夫専務らが応対しました。

自己紹介を兼ねた挨拶の後、山口専務が「瀬戸内海漁業の現状と課題」と題して基調講演を行いました。これを受けて意見交換があり主に魚価向上と魚食普及がテーマになりました。漁業者側から魚価の向上について「国は6次産業化の推進と簡単に言うが、漁業者が従来の漁業活動に加えて販売推進まで行うのは負担が大きいです。むしろ流通関連業者とのより良い連携を模索するべきではないか」といった意見や、魚食普及について「子供の頃から魚食に親しむこと

が必須だが、学校給食への参入は価格的な制約もあってハードルが高い。それらを総合的にコーディネートする機構が必要ではないか」など活発に意見が交わされました。

公明党議員からは、「明石市は行政・業界の連携した取組が成熟しており良いお手本になる。今日の意見交換をふまえて、儲かる漁業とするよう頑張りたい。」と感想を述べられ、研修会は盛会のうちに終了致しました。



## 瀬戸内法改正法案 今秋国会で是非成立を!

### シンポジウム「豊かな瀬戸内海の再生」開催

(一財)兵庫県水産振興基金

は「一度汚れた海が回復した例は世界にないというが、瀬戸内海は、きれいな海」に回復したが課題は残った。そこで、美しく豊穡の海、瀬戸内海の再生を図ろうと142万人の署名活動など、10年に亘り運動を行ってきた。先日「瀬戸内法の改正法案を次期国会で是非成立を」と知事市長会議として要請してきた。今後は、再生に向けたいくつかの考え方について専門の諸先生の意見を伺いつつ、「瀬戸内海の魅力をもっと広く活用できないか?」、ポテンシャルを如何に引き出し、共生空間にどう活かしてゆか?」を考えていきたい。豊かな海へ話題の広がりをお願いと開会挨拶をしました。このあと、講演と総合討論が行われ、瀬戸内海の多面的価値や機能について様々な意見が出されました。

講演は▼瀬戸内海環境保全特別措置法の改正への取り組み(県環境管理

## シンポジウム 豊かな瀬戸内海の再生

瀬戸内海を豊かな海にするために何が必要か?を考えるシンポジウム「豊かな瀬戸内海の再生」が9月1日(月)、神戸市内で開催され、産学官から環境関係者ら約450人の参加がありました。瀬戸内海環境保全知事・市長会議やNPO・環境創生研究フォーラムなど4団体が主催し、(公社)瀬戸内海環境保全協会ら2団体が協力して実施されました。知事市長会議議長である兵庫県 井戸敏三知事は「一度汚れた海が回復した例は世界にないというが、瀬戸内海は、きれいな海」に回復したが課題は残った。そこで、美しく豊穡の海、瀬戸内海の再生を図ろうと142万人の署名活動など、10年に亘り運動を行ってきた。先日「瀬戸内法の改正法案を次期国会で是非成立を」と知事市長会議として要請してきた。今後は、再生に向けたいくつかの考え方について専門の諸先生の意見を伺いつつ、「瀬戸内海の魅力をもっと広く活用できないか?」、ポテンシャルを如何に引き出し、共生空間にどう活かしてゆか?」を考えていきたい。豊かな海へ話題の広がりをお願いと開会挨拶をしました。このあと、講演と総合討論が行われ、瀬戸内海の多面的価値や機能について様々な意見が出されました。

理局 秋山和裕局長)▼持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸域管理手法の開発の研究目標・方針について(国際エメックスセンター 柳哲雄委員)▼豊かな瀬戸内海とはどのような海か(広島大学 西嶋涉教授)▼干潟・藻場の生態系サービス(香川大学 多田邦尚教授)▼瀬戸内海の生態系サービスの経済的価値(立命館大学 仲上健一特任教授)の多岐に亘り、豊かな海へ様々な視点が示されました。会場からは「改正法の実効には各省庁の横の連携が重要。研究者の意見と法の実行者が一体となり成果を上げてほしい」、「海の問題には流域文化の関わりも大きい。後方の山を含めて対象を広げ、県民に判りやすいシンポジウムにしてほしい」、また「防災の視点ではスーパードームが必要で、豊かな海には垂直護岸が否定されている。どちらを優先するのか?」などの厳しい意見が出され、「豊かな海」実現へまだまだ道程は遠いとの認識を新たにされた反面、懸念の法改正は大きな第一歩だということなどを再確認したシンポジウムとなりました。



# ハバロフスク友好提携45周年記念兵庫県民交流団へ参加 水産交流団4名がハバロフスク、ウラジオストクを訪問



日本に一番近いヨーロッパと呼ばれるロシア極東地域。

その中心地のハバロフスク地区と兵庫県との友好提携が結ばれて、今年で45周年となります。

(公財)兵庫県国際交流協会(齋藤 富雄理事長)では、人々との交流の輪を広げるため「ハバロフ

## (一財)兵庫県水産振興基金

スク友好提携45周年記念兵庫県民交流団」を募集し、漁業界から4名の水産交流団を編成し参加しました。同県民交流団(総勢39名)は8月19日(火)〜23日(土)の間、ハバロフスク市ならびにウラジオストク市を訪れ、友好記念行事への参加や、市民との草の根交流などを行いました。

19日に伊丹空港を発った一行は、新潟空港を経由しハバロフスク市へ移動し、翌20日、市内ホテルで行われた「ハバロフスク友好提携記念行事」



挨拶を行う井戸知事(右から2番目、右端は兵庫県議会 松本 隆弘副議長)

にはイワシキン副知事をはじめめとするハバロフスク州議員や各界の関係者約35名、兵庫県からは井戸 敏三知事をはじめ県議会議員、市町長、同交流団約85名が出席するなか、45年にも及ぶ友好関係の今後の継続と発展を願い、交流を深める光景が会場のあちこちで見受けられ、盛会のうち幕を閉じました。またハバロフスク滞在中には、市民の多くが所有し夏季や週末を過ごすダーチャ(農園)を訪問し、そこでロシア家庭料理が振舞われるなどの歓迎を受けました。21日は、市内の市場や教会



ダーチャにて地元子供たちが歓迎の踊りを披露



ウラジオストクはロシア太平洋艦隊の停泊する軍港でもある

などを見学後、次の訪問地であるウラジオストク市に向かうため、シベリア鉄道に乗り込みました。団員らは、ロシアの広大な大地を車窓に眺めつつ、寝台車での旅を楽しみました。22日の朝、ウラジオストク市に到着

後、市内の教会など観光地を見学しました。なお、この日の夕食時、水産交流団は水産物消費の現状を調査すべく市内の寿司店へ向かったのですが、雨のため市内の道路は川のように流れ、地下街に向かう階段は滝のような有り様。水産交流団の4名は脛近くまで水に浸り、雷鳴とどろく中、ガイドに導かれ寿司店に向かったのです。

何とか到着した一行は、店の人気メニューや海苔(中国産)を使った寿司を中心に注文し、その味や食材の原産地を確認したほか、店員へガイドを通じて聞き



ウラジオストクの寿司ネタは野菜が多く感じられた



道路は川のように流れ、この後さらに増水し...



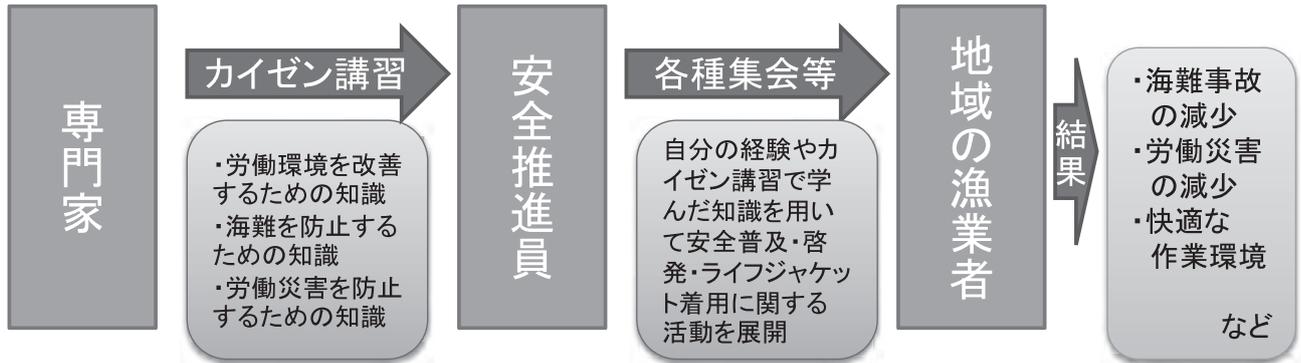
シベリア鉄道(右)とモスクワまで9,288kmを示すポスト(シベリア鉄道終点のウラジオストク駅にて)

とのことです。両市内とも日本語を学ぶことが出来る学校もあると聞き、今後、兵庫との友好をさらに深めていくことが出来るように思えたロシア訪問となりました。

込みをしました。雷雨の過ぎた23日朝からは帰国の途に就き、同日夕方には無事に伊丹空港に到着しました。行程のなかで、21日、22日には、地元で日本語を学ぶ学生との交流もたれたほか、ガイドの説明では日本に興味を持つ若者も多い

# 操業推進月間です！

「カイゼン講習会」を活用して、海難防止と漁業労働環境の改善に関する知識を有する「安全推進員」を養成しましょう



安全推進員は、地域や漁船の中で中心となり安全の普及・啓発活動を行い、漁船の労働環境の改善や海難の未然防止等について知識を有する漁業者のことで、水産庁の補助事業を活用して、専門家を派遣しカイゼン講習会を開催することができます。

運輸安全委員会のホームページを安全操業に活用しましょう！  
 （過去の海難事例から事故防止策などを見ることができます。）

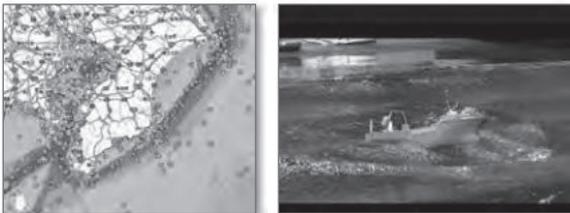
## 船舶事故ハザードマップ

地図から探せる事故とリスクと安全情報



こんなことも分かります。

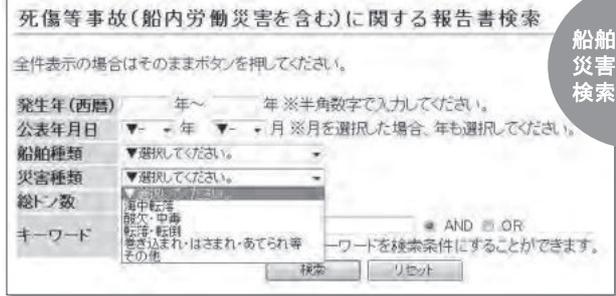
交通量を表示すると貨物船等の航路が分かります。 模型実験やCG映像で事故を再現しています。



<http://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/>

## 死傷等事故(船内労働災害を含む)に関する報告書検索

「海中転落」、「転落・転倒」、「巻き込まれ・はさまれ・あてられ等」など、災害の種類によって海難を検索することができます。



船舶の種類や災害の種類で検索できます。

<http://jtsb.mlit.go.jp/jtsb/ship/sailordisaster.php>



運輸安全委員会は、年間約1,000件の船舶事故等を調査して報告書をホームページで公表しています。

<http://www.mlit.go.jp/jtsb/index.html>

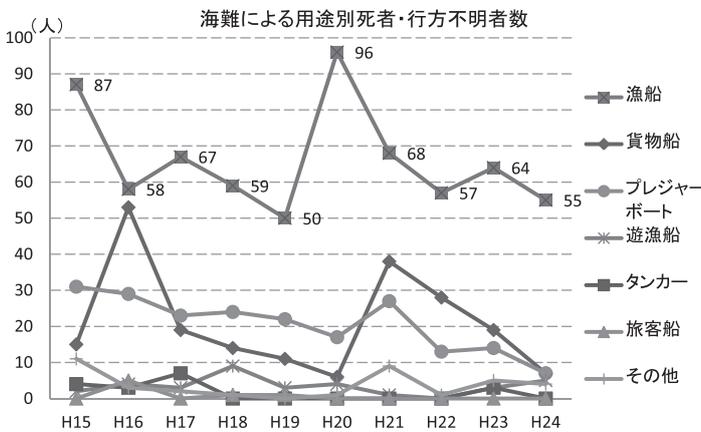
幹事団体：(一社)大日本水産会  
 協賛：全国漁業協同組合連合会、全国共済水産業協同組合連合会、漁船保険中央会、(公財)漁船海難遺児育英会、  
 (一財)中央漁業操業安全協会、(一社)全国漁業無線協会、NPO法人水産業・漁村活性化推進機構、(一社)全国漁業就業者確保育成センター  
 後援：水産庁、国土交通省、海上保安庁、運輸安全委員会、海難審判所

# 10月は全国漁船安全

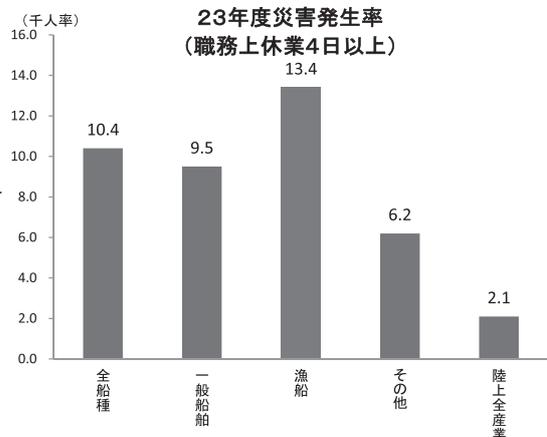
## 目的

- ・漁船安全操業に関する漁業者意識の向上
- ・ライフジャケット着用率の向上等による人身事故発生への減少
- ・安全航行・安全操業の徹底による漁船海難発生等の減少

漁船での操業は、いつも危険と背中合わせです  
(海難による死者・行方不明者の約6割が漁船、  
労働災害発生率は陸上産業の約6倍です)



出典：海上保安庁「関係省庁海難防止連絡協議会資料」

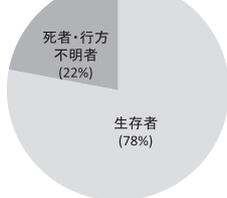


出典：国土交通省海事局船員政策課

自分の命を守るため、家族と仲間のため、  
ライフジャケットを必ず着用しましょう！

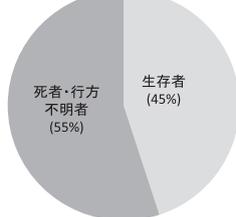
- ・ライフジャケットは、万一の海中転落の際、自分の命を守ってくれます。
- ・行方不明になった場合、死亡認定まで何年もかかることがあります。
- ・行方不明になった場合、仲間は長期間、漁を中断して捜索することになります。

ライフジャケットの着用・  
非着用別生存率(平成24年)  
着用者



出典：海上保安庁「第7回関係  
省庁海難防止連絡協議会資料」

非着用者



現在、ライフジャケットは昔からある固型式のチョッキタイプだけではなく、膨張式の首掛け式、ベルト式、ジャンパー式、また固型と膨張式を組み合わせたもの、さらには膨張式には自動式と手動式があるなど、たくさんの種類があります。

それぞれの特性を理解した上で、自分の体型や作業内容、時期などにより適した種類を選ぶようにしてください。

## 10月は「地球環境時代!新しいライフスタイル展開キャンペーン」月間です。 ～環境にやさしい買い物をしましょう～

新しいライフスタイル委員会及び兵庫県が、地球環境時代における新しいライフスタイルの展開を促進するためのキャンペーンを実施します。

みなさんも、この機会にぜひ環境に配慮した消費行動をはじめ、地球環境に負荷を与えない生活を実践してみてください。

**実施期間：平成26年10月1日（水）～10月31日（金）**

地球環境時代!新しいライフスタイルを展開しよう～

**実施主体：新しいライフスタイル委員会、兵庫県**

“みらいちゃん”  
環境に  
やさしい  
買い物の  
シンボルマーク



### 地球環境時代に適応した新しいライフスタイルの展開とは…

地球温暖化、生物多様性、廃棄物などの地球問題の重大さを認識し、日常の身近なところから、地球環境に負荷を与えない生活を実践すること。

#### 具体的には…

##### ・環境にやさしい買い物をしましょう

買い物袋を持参し、再生品・「地元産」「旬」のもの・包装の少ないもの・詰替用の商品・はかり売りのもの・容器は再利用できるもの・長く使えるもの・環境負荷の少ないものを選びましょう。

##### ・省エネ生活を徹底しましょう

人のいない部屋は消灯する、テレビをつけっぱなしにしない、外気温に注意し不要な冷暖房は控える、冷蔵庫は整理整頓し扉の開閉回数も少なくする、入浴時はお湯やシャワーの使いすぎに注意する、駐車時はアイドリングストップするなど、地球と家計にやさしい省エネ生活を徹底しましょう。

お問い合わせ：兵庫県環境政策課活動支援班 TEL 078-362-3156

# 海難事故をなくそう!

## ライフジャケットを 着用しよう!

固型式ライフジャケットはメンテナンスが要りません。  
最近、軽くて薄いものもあります。  
涼しくなってきたこの  
時期に是非どうぞ!



固型式ライフジャケット  
モデル：JF坊勢  
大角 生馬さん

## ～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか?

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。  
※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、  
ライフジャケットを着用してください。



**浮きます!**

モデル：JF仮屋 相田 欽司さん  
(JF仮屋海上安全講習会より)

ライフジャケット・浮力合羽の購入は  
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください

## 「農協市場館 マルシェ六甲」 オープン

JA兵庫六甲櫛谷支店併設の直売所「農協市場館 マルシェ六甲」が7月26日（土）にオープンし、オープニングイベントを行いました。

同直売所は、1999年に開設した「農協市場館 レインボーショップ櫛（はぜ）」と、6次産業化に取り組む「神戸牛（うし）牧場」（神戸市西区櫛谷町）が新たに直営店として入店しオープンとなったものです。従来の地元新鮮野菜や米の販売に加え、牛肉や豚肉を扱う精肉コーナーやコロッケ、ミンチカツ、焼豚などを扱う総菜コーナーを設置。精肉コーナーでは、来店者にゆっくり商品を見てもらえるようオリジナルショーケースを用いて、肉の選び方や食べ方など気軽に相談しやすい接客を目指しています。

当日は同JAや直売所の代表者ら5名によるテープカットがおこなわれ、同JAの北畑 親昭代表理事組合長は「地元産の農畜産物や加工食品の魅力をしっかり伝えたい」と挨拶をしました。9時の開店前から地域住民らが列をなし、開店と同時にトマトやトウモロコシ、ナスなど地元生産者による新鮮野菜や、サーロインステーキなどの肉を買い求めました。来店者からは「以前から直売所を利用していたが、新鮮な野菜だけでなく肉も買えるようになってうれしい」「孫が地元の野菜が大好きでいつも一緒に買いに来る」といった声が上がっていました。

### 【農協市場館 マルシェ六甲】

住 所：神戸市西区櫛谷町長谷334-1  
T E L：078-992-9285  
営業時間：9：00～18：00  
定 休 日：木曜日・年末年始  
店舗面積：約183平方メートル  
駐車場台数：45台（マルシェ六甲11台・櫛谷支店34台）



◀代表者らによるテープカット



新鮮な農畜産物を買求める来店者

## 自然にふれ、たくさんの 笑顔があふれた田植え体験会

神戸医療生活協同組合では、6月14日、小野市で「田植え体験会&どろんこ遊び」を実施しました。インターネットからの申込みが多く、大阪や姫路など遠方からの参加もあり、大人30人、子ども37人の67人でにぎわいました。また、3組の生協への新加入もありました。昨年参加された方が今回お友達を誘って参加されたりと、徐々に輪が広がっています。

田んぼの中でかけっこや綱引きをして、子どもはもちろん大人もどろんこになりながら、楽しみました。カエルをつかまえたり、大きなカエルに触ったり、自然の中で思いっきり楽しみ、帰る頃には「楽しかった！」と笑顔があふれていました。

今年は家で育てられるように稲をお土産にしました。お米がどのようにしてできていくのかを日々観察すること、できたお米を食べることで食育を目指しています。

神戸医療生協では、さまざまなイベントを通して、親子で体験や思い出を重ね、成長を育むこと、交流を目的とした「いるかクラブ」があります。自然に触れ合う機会、親子で参加できるイベントの企画・運営などを行っています。今年は8月に手作りウィンナー教室を行い、10月には地引網まつり、12月にクリスマスケーキづくりなども開催します。今後もたくさんの笑顔が広がるようにと願いながら企画・運営していきます。



田植えがこんなに楽しいとは思わなかった！



# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## 当て字万歳

◆《言葉》というものは、必要があつて生まれたから全てに語源がある。調べると、単純明快なものと複雑さに驚かされるものとに分される。「広辞苑」の編者、新村出（しんむらゐいずる）の晩年の著に『語源をさぐる』がある。高齢に至つてなお語誌を探り、言葉の成り立ちを究明する態度には大いに敬服させられる。これは趣味である面が大きいと氏は述べる。語源を求める古典道遥の道程は、さぞ楽しかつたろうと思う。字体の由来は『字統』で納得はゆくが、語源はどうか。例えば書物を「本」というのはなぜだろうか。その歴史は古代の中国へと遡り、深く深く潜航し暗闇を手探りしなければならぬのである。

◆《本》という字は樹木の下部を示した「象形文字」で、根幹とかミキを表す意味を持つという。語源は二通りある。「書物」が当初の薄い木片に書かれた時代を経て、紙が発明されて巻物に変わる。書を数える単位を「巻（かん）」と呼ぶ事になる。巻物が冊子に変わつても一巻と呼ぶ習慣は残り、やがて単位を一本（ほん）と呼ぶようになり、書物自体が「本」になつたという説。もう一つは、多くの書物が「写本」という形式で発展したため、元の書物を「根本」と言つた。このため根本＝本と呼ぶという説である。どちらも真実味があつて結論が出ていない。この調査に古い字引『温故知新書』や『日葡辞書（につぼじしよ）』『日仏辞書』『日本書紀』などの書物が必要だつたと新村氏が述懐されている。

◆『万葉集』に用いられた万葉仮名は、すべて当て字と云うことだが、当て字は辞書一冊が作れるほどに沢山ある。植物や動物をいう漢字にも難読のものが多い。これは当て字ではなく、漢字の国である中国の固有名詞を、日本における同類の物に当て嵌めたものだから、全てが熟字訓という事になる。そのため、字体から全く判断が出来ない。非常に難読になつて当然である。百日紅はサルスベリ、蒲公英がタンポポ、万年青はオモト、河豚がフグで、通常の知識ではとても読めないが、字形を覚えて仕舞うと楽しく、当て字が嬉しいものになる。

◆北海道を旅行した時、バスガイドが難読地名を話題にした。ツアー旅行者には楽しい一時だったが、北海道の地名はアイヌ語に漢字を当てたものが実に多く、通常で考えられない読み方に驚かされた。忍路（おしよる）、咲来（さくくる）、晩生内（おそきない）、貴老路（きらろ）など。言葉の優雅さと共に漢字の当て方の旨さにも舌を巻いた。石狩町の花畔（はんなくろ）や根室市の穂香（ほにおい）はとても響きが良く旨すぎて、マサに《当て字万歳》という思いがする。

# 大輪田塾だより

## 平成26年度 大輪田塾修了論文発表会

今秋に研修課程修了を目指す第8期生がそれぞれ任意の研究項目で作成した修了論文を発表する「平成26年度大輪田塾修了論文発表会」が、当塾運営委員や県・漁協系統役員ら約50名が出席するなか、8月26日（火）兵庫県水産会館で開催されました。

塾生は、認定審査委員からの質問にも堂々と答え、これまで学んできたことの集大成となる修了論文の発表を無事に終えることができました。

運営委員を代表して講評を行った県立水産技術センター・山村雅雄所長は、一人ずつの論文に対して評価をされたのち、「発表内容もさることながら、質問に対する受け答えが非常にしっかりしており、これまでの研修の成果がうかがえる」とまとめられました。



修了論文発表の様子



委員からは様々な質問が…

大輪田塾で学び感じたこと

第8期生 津國 和哉（JF仮屋）

指導員・瓢雄介（県水産課資源増殖室）

健全な組合経営に向けて

第8期生 魚 裕之（JF一宮町）

指導員・岩佐 隆宏（県洲本農林水産振興事務所）

高船齢化する但馬地区の漁船について

第8期生 赤松 克司（JF但馬）

指導員・水田 章（県但馬水産事務所）

（発表順・敬称略）

【運営委員（敬称略）】近藤 敬三（県農林水産局水産課・山村雅雄（県立水産技術センター）・突々 淳（JF兵庫漁連）・戸田 氏懿（兵庫県水産振興基金）